

# まちづくりビジョン策定委員会（第12回）会議録

■ 日 時：平成26年6月20日（金）午後2時30分～午後5時30分

■ 場 所：みなかみ町観光センター 2階 第1会議室

■ 出席者：

①まちづくりビジョン策定委員会（9／13名）

小林 洋、小野 章一、河合 生博、鈴木 和雄、木村 孝弘、持谷 美奈子、  
渡辺 一彦、高橋 直也、鬼頭 春二

②アドバイザー（1／1名）

平松 庚三

③事務局（3／3名）

まちづくり交流課長 宮崎 育雄、商工振興GL 小池 俊弘、主査 大川 志向

■ 配布資料

資料1 第1回観光部会議事録

資料2 第1回農林業部会議事録

資料3 第1回健康・福祉部会議事録

資料4 まちづくりビジョン策定スケジュール（後期）（案）

■ 会議内容

---

## 1 開会

## 2 議事

（1）今後のスケジュールについて

- ・翌年1月末を目安に、委員会としてビジョン（案）を町長に答申する。
- ・ビジョンには目標値や実行案、概算予算まで含む必要があつて、次年度の当初予算に必要経費を計上するためにも、11月末を目安に実行案の開発を完了させる。12月以降は答申書として体裁を整える事務的なまとめの作業となる。
- ・本委員会は答申をもって解散となる。

（2）ユネスコエコパーク認定の推進について

- ・6月議会でユネスコエコパーク認定に向けた予算が議会で承認された。また、7月にユネスコエコパーク推進室が設置される予定である。

（3）観光部会での審議内容について

○エコパークと観光が関わってどのような戦略を構築できるのかを議論

■マイレージサービス

- ・継続的な来訪者（リピーター）の獲得、町内回遊による長期滞在化を目的として、町全体でマイレージサービス（来訪者に町内共通のポイントを付与し、ポイントに応じたサービスを提供）を行ってはどうか（スイスのツェルマットのロイヤルバッジ）。

- ・顧客にとってのベネフィットは何か、町内事業者の賛同をどのように得るのか、一般町民まで巻き込んだ仕組みとするのか、ポイント付与の手法をどうするか（バッジ？スマホの活用？）などを検討する必要がある。町民を巻き込むためには、本来であれば小中学校において観光が世界最高の産業であって平和産業であることを教育すべき。

#### ■アップセルやクロスセル

- ・観光消費額の単価を上げることを目的として、アップセル（既存顧客に「より上位のもの」を購入してもらう）や、クロスセル（既存顧客に「別な商品」も購入してもらう）の新しい手法を提案したい。
- ・クロスセルはスキー場と飲食店など、小さな規模ではすでに導入しているが、大きな力にはなっていない。他の団体も含めた横のつながりを密にする必要があつて、観光内だけでなく、農業なども含めた手法（例えばリンゴの発送に観光パンフを同梱するなど）としたい。

#### ■顧客情報の共有

- ・マイレージサービスやクロスセルを導入するためにも、町内の事業所で顧客情報（メールアドレスだけでもよい）を共有する仕組みを構築してはどうか。情報が共有されることで、サービスの提案などの優遇措置や、業種の垣根を越えた効果的な宣伝活動が行える。

#### ■複雑な組織の連携

- ・町全体が一体となった取り組み（上記マイレージサービスやクロスセル、顧客情報の共有）をするためには、町や観光協会などが実施主体とならないと多くの事業者の賛同を得られないのではないかと。また、その他にも小さな観光関連組織が乱立しているために、力が分散してしまっている。
- ・観光協会などの組織に加盟していない事業者も多く、一体的な事業の実施が困難であつたり、情報の共有が図れていなかったりする。
- ・利害関係者を巻き込んで合意を形成したり、乱立する組織のあり方を検討したりする必要がある。

#### ■みなかみ18湯のブランド化

- ・みなかみ温泉に水上温泉があるなど、町としての温泉のブランドが確立しておらず、たくさんの温泉がある強みを活かしていない。「みなかみ18湯」としてブランド化を推進したらどうか。
- ・認知度を向上させることなどは、予算をかければよいことであつて、比較的容易である。また、みなかみ18湯のロゴを作製するなどして、各温泉と18湯を連動させる仕組みを構築すればよい。最も困難で大切なことは、町内の合意を形成すること。

#### ■数値目標の設定

- ・答申には数値目標を含める必要がある。今回の場合は、目標値を設定してから達成するための手段を検討するという流れがよいのではないかと。観光消費額を増やすわけであるから、観光入込客数を増やすか単価を増やすかのどちらかしかない。

#### (4) 農林業部会での審議内容について

##### ■農業生産法人の設立

- ・年々増加する耕作放棄地の解消や農業者の経営の効率化、農業ベンチャーの育成を目

的とした農業生産法人を設立したらどうか。ホールディングカンパニーのようなイメージで農業者を束ね、加工工場や農業機械を法人が所有し共有できればよいし、教育機関となればよい。

- ・また、法人では生産だけでなく販売までを行う。売り先を見つけることが一番の課題であって、売ってから作るような仕組みが構築できるとよい。
- ・資金としては6次産業化の国の補助金を活用できるのではないか。
- ・それぞれの農家に若い人を受け入れて育成するような仕組みを構築できれば、新しい試みであるしおもしろい。農業は脚光を浴びているし、農業ベンチャーを全国から募集してチャンスを与えればよい。
- ・法人でどのような作物を育成するのがよいか検討する必要があるって、耕作放棄地の位置を確認し、果樹や野菜、米や穀物等から適した作物を検討していく。
- ・観光と農業の人材を調整できる仕組みの構築など、安定した雇用体制を構築する必要がある。冬場の雇用対策として苗木や接ぎ木の育成などを検討してはどうか。
- ・年配の農家は組織に所属しなかったり、情報を共有しなかったり、お互いが干渉しない傾向にある。若い世代では協力関係が築けている。

#### ■安心安全な農産物のブランド化

- ・安心安全をキーワードとしたブランド化を町全体で進めてはどうか。リンゴや米などの生産は農薬履歴をきちんとつけているし、低農薬であることや安全な農薬を使用していることをオープンにしたり、農産物の安全性を自ら保証する制度を創設したりして、消費者が安全であることを認知できるようにすればよい。
- ・果樹はTPPで最大のチャンスがやってくるのではないか。特にアジア地域は中国や台湾など中間層が増えていてターゲットとなり得るし、中国の富裕層は安心安全にこだわるため、自国で生産されたものは口にしない傾向にある。
- ・温泉やソーラーエネルギーの活用や減農薬生産など、エコというフレイバーを付け加えることで、さらに付加価値を高めることができるのではないか。

#### ■6次産業化の推進

- ・歩留まりを高めるために、B～C品を加工品として有効に活用するべき。加工施設は町内にはビンジュースくらいしかなくて、ジャムやドライフルーツなどは各事業者が乾燥機などの施設を所有していて非効率的である。
- ・加工品としては果樹（パックジュース、ジャム、ワイン、梅酒、ドライフルーツ、ドレッシング）、野菜（カット野菜、冷凍、フリーズドライ、パウダー、レトルト）、穀物（パウダー、乾麺、冷凍、米粉パン、団子、甘酒）などが考えられ、市場の動向や実現可能性と照らし合わせながら候補を絞り込んでいく。
- ・加工したものを旅館などで商品として提供したり、加工体験を商品として売り出したりすることも考えられる。

#### (5) 健康・福祉部会での審議内容について

##### ■高齢者向けテーマパークの誘致

- ・健康な高齢者がリタイア後を生き生きと過ごせる場の提供を検討したい。人口が増えることで、雇用の場が確保され、観光や商工業分野への波及効果も見込める。
- ・本町には豊かな自然のほか、農業や釣り、ゴルフなどを楽しめる環境や温泉もあって魅力的な場所となり得る。冬は寒いですが四季のメリハリがあることも魅力の1つとなるのではないか。
- ・町内の遊休土地を活用して、1,000人規模の民間によるサービス付き高齢者向け

住宅を設置したい。友好都市とアライアンスを組んで、高齢者を優先的に受け入れる体制を作ればよい。入居資金としては持ち家を担保としたリバースモーゲージ制度などを活用できるのではないかな。

- ・委員会としてある程度具体的な筋道を設定しないと構想の実現は困難である。候補地はどこにするのか、施設の整備方法（①大手企業などを誘致し設備投資をしてもらうのか、②町で施設を整備して経営をしてもらうのか。）、施設をどのくらいの規模（戸数）とするのか、介護や医療とどのような仕組みで連携するのか、などを検討する必要がある。
- ・また、温泉を活用した暖房を設置するなど、エコを絡めた商品としたい。温泉を循環させるのではなく、熱交換により不凍液を循環させるなどの手法が考えられる。

### 3 次回委員会の開催について

- 次回の委員会について、次のとおり日時と場所が決まる。

日時：7月4日（金） 午後2時30分から

場所：観光センター 2階 第1会議室

- 委員会後に、まちづくりビジョン策定委員会が講演会を主催する。

講師：藻谷 浩介 氏

開演：午後5時30分

### 4 閉会